

FY24 Q1 決算発表後に多かったご質問とご回答

全体

- Q 全体を通じて、社内の見込みに対して上振れたところ、下振れたところは？為替変動において、これまで円安が続いていたなか、円高に逆回転はじめていますが、業績にどのような影響が想定されますか？
- A グループ全体では、情報・通信事業の特にLSI、HDDが想定を上回る成長となりました。ライフケア事業については、3月末に発生したシステム障害の影響を受けたものの、積極的な販促活動等により障害発生当初に想定していたよりも売上を回復することができました。他方、ライフケア事業の中国市場における売上が反腐敗運動などの外部環境要因によって下振れとなりました。直近の円高傾向については、ドル建て売上の多いHDD基板やメガネレンズ等において、為替換算時にマイナス影響の可能性があるとともに、保有する現預金の約7割がドル建てのため、為替差損が発生する可能性があります。
- Q Q1のライフケアの利益率が13%程度と通常時より低かったですが、いつ頃に回復しそうでしょうか？
- A ライフケア事業において短期間で売上を回復させるべく、積極的な販促活動を行った結果、想定よりも早く売上が回復した半面、収益性は犠牲になりました。Q2は、Q1と比べて販促活動を減らすものの、利益率は回復途上となる見込みで、下期以降に利益率が概ね通常の水準に戻すことを目指しています。
- Q Q1の情報・通信事業の利益率が約55%と非常に高かったですが、これは持続可能でしょうか？
- A Q1においては、需要が大幅回復するなか、慎重なコスト執行を継続していたこと、また、Q2以降はHDD基板においてラオス工場の再稼働コストや、LSIの能力増強に伴う減価償却費増などが見込まれることから、Q1の情報・通信事業の利益率水準は一過性のものであったと考えます。

メガネレンズ

- Q 3月末に発生したシステム障害の影響は？市場シェアの低下はあったのでしょうか？また、MiYOSMARTの販売状況についても教えてください。
- A システム障害により一時的な市場シェアの低下を招きましたが、積極的な販促活動を行った結果、想定よりも早く売上が回復し、シェアを取り戻すことができました。MiYOSMARTについては、中国において景気減速等の影響を受け、成長率が低下しました。一方、欧州では近視抑制製品が保険償還の対象となる機運が高まりつつあり、これを追い風に、販売活動を積極化していく考えです。

内視鏡

- Q 中国での反腐敗運動の影響と今後の展望について教えてください。
- A 反腐敗運動の影響は、今後もしばらく続く見込みです。こうした外部環境の変化に対応すべく、Q1においては、中国ビジネスの社内体制や流通チャネルの見直しなど、大幅な構造改革を行いました。Q2以降に徐々にこの結果が反映されることを期待しています。

ブランクス

- Q EUVブランクスの需要が急速に戻っている背景と持続性について教えてください。
- A 主要顧客における在庫調整が一巡したなか、3nm世代のテープアウトが本格化していることが需要を押し上げていると推測しています。持続性については、四半期ごとに季節性を反映し多少上下しつつも、高い水準の需要が継続する見

込みです。

Q 米国の中对中国に対する半導体関連の追加規制はマスクブランクスの需要に対して影響がありますか？

A 現状においては、中国にEUV市場がないこと、またDUVについても中国向けの売上規模が非常に小さいため、影響はありません。

HDD 基板

Q 3.5インチHDD基板の需要が急速に戻っている背景と持続性の展望を教えてください。また、AIサーバーもHDDの需要に影響しているのでしょうか？

A 顧客の大幅な在庫調整があった前年からの反動から、汎用サーバー向けの需要が増加していると思われます。また一部、AIサーバーに関連した需要も増加している可能性があります。持続性については、季節性を反映し上下はありつつも、今後も高水準の需要が継続する見込みです。

Q ラオスの稼働再開により、キャパシティはどれくらい増える予定ですか？2社目の顧客獲得のビジビリティが高まっているとのことで、ラオス工場の再稼働はこれも踏まえたものなのでしょうか？

A 再稼働当初はラオス工場のフルキャパシティに対して1/4～1/3を稼働させることで、3.5インチ基板のキャパシティが1割程度増える見込みです。データセンター向けHDD需要は、2025年以降も堅調に推移すると見込んでおり、必ずしも新規顧客獲得を前提とした再稼働はありませんが、ラオス工場をフル稼働されることや、ラインの増設等により、今後の需要増に柔軟に対応できる見込みです。

映像関連

Q 好調な業績の背景と持続性について教えてください。

A ミラーレスカメラ向け交換レンズや車載向け光学製品の販売が好調でありました。持続性については、季節要因で下期に需要が落ち着く傾向がありますが、年度を通じて高い水準が続くと想定しています。

以上

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。

歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

お問い合わせ先:h-ir@hoya.com